

12 番 吉川議員

吉川議員／皆さん、おはようございます。議長より登壇の許可をいただきましたので、いまから、自由民主党、政策研究クラブ吉川の一般質問をさせていただきます。

今回 3 項目について通告をさせていただいています。1 点目が、市道認定の見直し。2 点目が、水害地の排水対策。3 点目が新武雄病院の評価。以上 3 項目について質問展開をしていきます。

さっそくですが、市道関連について、質問します。これは、先の 6 月議会で質問させていただきました。地域の区長さんを通じての、生活インフラの要望です。これが、平成 24 年度でみますと、362 件要望があつて、実施できてるのが、133 件というふうなことで、133 件にとどまってるということで指摘をさせていただきまして。なんらかの予算措置をお願いしたいということで、お願いしていたわけでございます。

今年の当初予算をみると、1 億 3200 万円が、稼働予算に組み込まれていましたが、執行部のほうに検討していただいて、9 月の補正予算において、1 億 500 万ほどの予算を上積みをしていただいております。最近、この予算を使つての事業を市内各所で、見受けることができる。進捗状況をどのようになっているのか、お伺いします。

議長／樋渡市長

樋渡市長／今、9 月補正の発注済み分は 83%進んでいます。年内には発注完了予定ということで、松尾技監を通じ、急ぐようにということを、私からもお願いしています。いずれにしても生活インフラの整備は市民が快適で豊かな生活をするために、もっとも大切なもの。きめ細かくできることは、早く迅速に対応するのが、私は樋渡市政の根幹だとおもっておりますので、きめ細かく早くというのは、そのまましていきたい。

議長／12 番 吉川議員。

吉川議員／今、82%の進捗ということで、先ほどの要望箇所からすると、この 1 億積み上げをしてもらったが、まだまだ積み残しというのが、あるので新年度は予算確保というものに、財政当局は努めていただきたいと思います。

生活インフラの中で、1 点、お願いしたいことがございます。防災、減災という観点から、いったときにも、交通安全の施設。今各所で、道路改良されてて、非常に綺麗になっています。その一方で、既存の道路を見ても、白線、中央線、それから、外側線がございしますが、そしてまた横断歩道もございします。こういったところの白線が非常に見づらくなっているということで、昼と夜間を比較したのですが、夜間、車で通ると、非常に交差点があるのかどうか、視認性が悪くなっている。路肩のほうですが、外側線も消えてい

るところが多い。非常に通行しづらい、歩行者、自転車を発見しづらいという部分がありますので、白線の消えかかった部分を、重点的に予算配分していただき、新年度、取り組んでいただきたいと思いますけど、この辺についてはいかがでしょうか。

議長／樋渡市長

樋渡市長／これ、横断歩道というのは、市が責任をもってやらないといけないことなんです。これは、画像でも出ていますが、交通安全施設として、市がやらないといけない。ただし、これは非常にやっかいなところがあって、県の公安委員会に造進しないといけない。勝手に県の公安委員会の許可を待たずしてこれをやるのは、たぶんほこになっちゃんですよね。だからこれ、見直しについては、求めたいとおもいます。事故があつてから、対応するというのは、取り返しの付かないことじゃないか。一定その部分というのは、理由があればまかせてほしい。公安委員会が遅いんです。それは仕方ない、さまざまな案件がこうやってきていると思います。数はわかりませんが、年明けに知事要望があるので、実施要望がありますので、そのときに言おうと思っています。

これは公安委員会に、ほかもそうですが、いくつも案件があるので、公安委員会の許可が下り次第、やっていきたい、このように思っています。予算の手当は十分にしてるので、今それを待ちたいというふうに、思ってます。

議長／12 番 吉川議員

吉川議員／公安委員会、それから、県も、市、この3者連携をとって、そういう部分の対策、防災・減災をはかっていただきたいと思います。よろしくお願いします。

それでは、市道認定の見直しについての質問です。

半年ほど前に、お話をさせていただきましたが、県の武雄多久線。

商業施設の、トライアルさんの前の写真ですが、ここを起点として、駐車場と店舗の相半ばが、里道になってる。

途中、市道を通して、最終的にイシキ線。

中学校に行く道です。

市長就任当初、広く拡幅していただきました。

ここまでの起点から、終点までのここが、こういう商業施設がある。

あるいは、住宅が両サイドに建ち並んでいるということですので、市道認定をするべきだと、お話をさせていただいたが、そのほど、協議の状況、どのようになっているのか、お伺いします。

議長／森まちづくり部長

森まちづくり部長／一部、児童の部分と個人さんの敷地のところが、道路として、使われているというのもあり、そこらへんの下地の運筆あたりが必要になると思いますが、そういったところで協議してるところです。

議長／12 番 吉川議員

吉川議員／協議の途中ということですが、ぜひ、これも早めに市道に格上げしていただけるようお願いしたいと思います。

この要項はいいですね。

このトライアルのところ以外でも、いろいろあります。

国道 35 号線の上西山のお弁当屋さんのイッカさんの前のところですが、ここを起点として、市道、西山線、1 級市道になってますが、ここの終点のところまで、ここもですね、イッカさんの裏のところは、公民館、神社がありますし、住宅も新しく建設中です。

地元にとっても、非常に、生活道路として重要な道路になっています。

この路線を見ますと、堂島のところ、水道課があるところ、若葉台の入り口のところ、だいたい 3 本しかない。

ぜひこういったところも、市道へ認定をしていただいて、利用しやすくしていただきたいと思っております。

これは、橘の第 2 地地区。

手前が農政第 2 地点、ここを起点として、終点側が朝日道ということで、地元のみなさんにとっては、生活する上で、重要な道路になっている。

そしてまた、こういった里道になりますと、どうしても、地元で管理をしていかないとならない、拡幅工事をするにしても、地元が費用負担をしなければならないのが、一番のネックですので、地元には財源がないので利用頻度の高いところが市道に認定すべきという考え方に立つべきだと思います。

これは、橘中央線です。

この右手のほうに信号機があるところですが。

先のほうがノウテオキナガ線が走っています。

このノウテオキナガ線と橘中央線前中、ここだけが里道として残されている。

どうしてもここに信号機があるが、車の交通量が多いです。

こういったところも里道から市道へ変更を上げていただきたいと思います。

これは、山林の中ですが、こういった人がなかなか通らないところも、昭和の合併当時から話だと思いますが、市道に認定している。

これも、市道です。

里道かなというところも市道に認定をされています。

それはこれで、市道として管理をして結構かと、と思いますが。
今回お願いしたいのは、生活に密着したところは里道をぜひ市道に認定しなおすべきだと思いますが、この点については、いかがでしょうか。

議長／森まちづくり部長

森まちづくり部長／集落と集落を結ぶ、基本的な市道、農道。
里道でも、利用頻度が高い道路。
利用頻度が限られているそういった、道路等に区分して、地元の理解を得ながら、市道の見直しをしたいと考えています。

議長／12 番 吉川議員

吉川議員／ぜひ、お願いします。
各区では、財源的な問題が一番ネックですので考慮して欲しい。
今回は、例に挙げましたが、市内全域を見渡していただいて、市道に格上げするところ、しないところの線引きをあげて、いつていただきたい。
次に水害地の排水対策について質問をします。
これは、六角川の堤外地と堤内地側の断面図を表しています。
6、7月の雨季になると、こういうふうに下水をして内水が浸かってしまう。
特に大きかったのが、平成2年の六角川観測史上最大の洪水だと言われました。
これを契機に先人の皆さん、行政関係者、地元の皆さん、協議いただいて、ここの築堤を対応されるまでかさ上げすると計画を立てていただいて、それにあわせて排水機場の整備をしていただいたんですね。
このことにより、内水の被害は大きく軽減することができるようになりました。
お尋ねしますが、これは佐賀市の排水機場ですが、こういった排水機場が六角川水系の中で、武雄県内で結構だが、どれぐらいあるのか、まずお伺いしたいと思います。

議長／森まちづくり部長

森まちづくり部長／国の管理の排水機場が6カ所、県の管理の排水機場が2カ所、市の管理が2カ所。
排水能力においては、全体で124.6トンの1キロあたり排水能力があると。

議長／12 番 吉川議員

吉川議員／全部で 10 カ所ですね、国管理が 6 カ所、県が 2 カ所、市が 2 カ所で、10 カ所ほどあると。

考え方として、このポンプによる排水は非常に大きな役割があると思います。

全体として、私見ですが 7 割はポンプに頼ることが重要だと思いますし、もう一つは、上流部でカットウをいかに抑えるか、それが 3 割ぐらいだと見ていますが。

このポンプと上流カットウという考え方、この 2 点から質問しますが。

北方の志久地区の図面ですが、大崎地区に川が流れています。

ここに平成 2 年の大水害を受けて、排水機場を地元の関係者の努力でできた。

下流に行くと、こういった樋門が設置されています。

状況を見ると、今現在、一番問題なのは小学校を中心の志久の地域。

ここの一帯が毎年水害に遭っている。

30 ミリ、40 ミリの雨が数時間、続けば浸水する。

詳しく見ると、一帯に北方小学校があります。

通学路と言うことで、これが中央線、北方の。

こういった道路が、通学路になっている。

こういったところに危険性があるということで、休校にすとか事態になっています。

もう一つ、この樋門、広田川ですが、ここも被害に遭う。

J R が不通になる。

ここの踏切が浸水で不通になるということは、ハシモ地区から来られるお子さんの通学ができない、学校に行けない状況もある。

大豆等をこの時期まくわけですが、浸水被害によって、農家さんの不満も出ている。

全体的のことを申すと、北方町の一番中心となる、まちづくりが遅れてしまうのが、一番大きなネックになると思っています。

今現在のここの内水排除をどのようにしているか、排水機場がここにございますが、上流方向へ、約 600 メートルさかのぼってここから排水をされている。

しかし、排水機場も完全な能力がないので、ここの排出する事もできず、排水路も小さいです。

こういう状況で毎年ここが浸かっている状況です

こういった樋門が 4 カ所ほどあります。

ここをうまく使って、内水排除をすべきだと思っています。

堤外地から見たものですが、この堤内地の水かさが増えると、樋門を閉めてしまいます。

内水に水がどんどんたまっていくという形。

これが、浸水している状況です。

道路が北方の中央線ですが、道路までつかる状況です。

ここで提案ですが、樋門をうまく利用して、内水排除をできないかと。

いまは、この樋門、ゲートに直接取り付ける水中ポンプの排水機がございます。
コンマ5トンから、1、2や3トンなど小型のレベルのものです。
だいたい1トンくらいのもので、ポンプの費用が約6000万くらいと言われています。
1億くらいの事業費でできるということです。
この内水を、ポンプで六角川の本線に出していくということです。
合併して8年ですが、この合併特例債が5年間延長になり、86億円ほど増になっております。
合併特例債をうまく活用して、有利な財源を使って武雄市の単費でも結構だと思います。
ポンプの設置をお願いしたいと思います。
その点について、当局はどのように考えているかお伺いします。

議長／森まちづくり部長

森まちづくり部長／現状の六角川の可動の状況では、水位が計画洪水位まで上昇し、堤防の決壊の危険性が高まるということで、これ以上のポンプの設置は、管理事務所ができないという回答です。
できないということで、現在国より、六角川の樹木、あるいは掘削に取り組み、水位を少しでも低くという事業がなされている状況です。

議長／樋渡市長

樋渡市長／実体を少し申し上げますと、4年くらい前ですが、大水害があったときに、先ほどの写真もそうだと思いますが、そのとき、誰とは言いませんが、下流域の首長さんがポンプを開けるのは辞めてくれとあった。
うちはポンプを入れて、水の中に入れる。
その分が下流域に逆流する。
その関係もあるので、国交省の河川事務所もそこそこ考慮している。
武雄市だけの問題じゃない。
しかし、御指摘は、その通りですので我々とすれば先般4年くらい前になりますが、ヤマザキさんを中心に、350万トンの整備を国にも働きかけていますし。
国にも一定の、民主党で良かったのはここだけです。
ぜひこれは、反対するのではなく、良いことは良いと引き継いで、次項の六角川上流部の調整池の議論をお願いしたいです。
理論的にいうと、350万トンの調整池ができた場合、水位が70cm下がるので、これは絶対にやりたい。
あらたにダムをつくると、お金もかかる。

六角川の採石場をやれば、3分の1、4分の1ですむと聞いているのでその働きかけもしたい。

議員の問題認識はその通りだとおもっている。

ポンプの性能があがるのは大事だと思うので、

議長／12 番 吉川議員

吉川議員／採石場の 350 万トンの調整池。

これは最終の姿だと思いますが、これが実現できれば、15 年、20 年の歳月がかかる。

その間、東側地域も橋など、浸水に見舞われます。

この川越地区の排水機場、23 トン毎秒が設置をされていますが、その六角川のウマン川を見してみると、排水ポンプをつけています。

医王寺の排水機場のポンプ、これ 2 トンのやつがついとるんですね。この 2 トンがついているだけで、この医王寺地区の内水対策が、なされているんですよ。このポンプがなかったら、医王寺地区もつかるんですね。

そういう考え方からすれば、北方の中心部のこの地域が、いま浸水被害にということであれば、この樋門を利用して、この樋門ですね。ヒロタ川でも結構です。ここに先ほどいった 2 トンクラスののポンプをつけることで、ここが排出できると思う。

ポンプをつけるから、むやみやたらに、ポンプを回すという考え方ではない。全体を見回して一番ネックになってるのは、ここなんですね。ここの水をいかに排出することは非常に重要ですので、国交省がポンプはつけないという考え方ではなく、ポンプをふるにまわすんじゃなくてつけておいて、ここが浸水しそうになるときだけ、どっと流してやる、医王寺川と一緒にですね、同じ考え方でやらないと、15 年も 20 年でもこの状態では、まちづくりはできないと言っているわけです。

そのためには、国交省との交渉も必要ですけども、市長がやはり政治的な判断をして、解決を図っていくところに来ていると、思っております。いかがでしょうか？

議長／樋渡市長

樋渡市長／現実問題、ポンプをつけたら、周辺住民は絶対フルにしてくれと絶対言う。それを否定はしていないんです。僕は現場を扱ってね、ものすごい矢のように、反対さんって山のように来るので、いざ事が起きたときに、やっぱり 60%にしましたというのは、無理な話です。

議員の話を聞いて納得したのは、ここのポイントは、これね確かに、地元の皆さんから、聞いてるんですよ、もう 1 個まえの。ここでいうと、右手のところがないというのは、私も聞いていますが、そうなったときに、いずれにしても私の独断ではつけれない。六角川

の河川管理者は国土交通省の一級河川なのでできない。

今、思ったのは、一旦ここを、本当にこのままでいいのか。河川の形状ってやっぱり変わっているんですよね、平成 2 年の時からから、今では相当かわっている部分もありますので、一旦点検します。国交省と私どもで。点検して、老朽化の問題とか、いろいろあるのです。

ここの部分の能力を減らし、ここをつけるとスクラッパービルドになるので、この議論はできるかもしれない。しかし、実際、でもね、いったんつけたる所を、なくすのはなかなかしんどいですね。ですので、いったんちょっと、科学的にどのくらいの効果があって、っていうのは、さきほど申したとおり、平成 2 年と、4 年前では、河川の状況が変わっているというのがありますので、合理的にね、国交省と協議をして、この必要があるというのであれば、それは私から申し上げたいと思ってますので、一旦、こっちのほうに、私どものほうに、この議論というのは、預からせてほしい、このように思います。

議長／12 番 吉川議員

吉川議員／ちょっと、先送りします。

これは、排水ポンプの能力を 10 カ所ござます。それを、能力別にしたのですけども、タカハシが 50 トン、カワゾエが 23 トン、板橋 14、焼米 13 トンとなってる。

その中で、先ほどおっしゃった、124 トン、武雄市、管内あるということですが、その、一部を、先ほどのヒロタ川の樋門のところにポンプをそえるということを、ぜひお願いをしたいと思います。

高橋第一とか、医王寺だとか、ナルセだとか、こういう小型ポンプがものすごく、地域にとって、効力を発揮しているんですね。ですから、慢性的に、毎年、毎年、浸かるシキ地区とか、こっちのヒガシ川でもそうです、5 トンから 3 トン増やしていただいた、けどここの能力自体足らないんです。ですから、こういった、小さい対応策を積み上げて、ここまでのところを解決してあげる。これが行政だと思うので、ぜひお願いをしたいと思います。

議長／樋渡市長

樋渡市長／私たちがほしかったのはこの議論です。数字で出していただくのが、一番われわれとしても、説明のしがいがあるので。ただね、これ東川地区が出てますけど、これをまたいうのは、もう、大変ですよ。ですので、それは地元の議員さんもそうですし、言い出しっぺの、吉川議員もここは頑張っしてほしいと思います。

この議論があると、どこかの地区を削ってね、ヒワタ（？）地区に、例えば 1.8 とかに入れるというのは、僕は可能だと思いますので、そうすると、下流域の首長さんたちにも説明

しやすいじゃないですか。全体の総トン数は240何トンで、減っても増えてもいいないと、言えますので、その議論はできます。

ただ、なかなかね、難しいってのは、この7年でわかりましたので、先ほど言いましたように、国交省と松尾技監が、水害地の排水対策ということで、対応室長になったので、国交省と協議の上、もう1回きちんと報告をしたいと思います。

議長／12番 吉川議員

吉川議員／市長が言われたように、フルで50トン、23トンとかありますけど、いっぱいいっぱい使うということじゃなくて、これをうまく調整、管理しながら、こういったところも動かして行って、全体的に、浸からないようにしていただきたいと思います。

それと排水対策の2点目ですが、カワゾエ川の上流部です。広い立派な河川が作っていたところですが、この、河口部分をみると、JR橋があります。ここの下を身明日と、橋脚が3台たっておりまして、橋台の方もですね、コンクリート、そしてヤイタでですね、されてる状況であります。これ断面積からいっても25%くらいの流量が、ここの橋脚のところで、ロスが発生していて、流しきれないのもあるので、ここは改良をかける必要がある。

これは、高橋の川のところの、JRの高架橋ですが、ここの橋脚は、これだけ広いスパンで、1つしかない。非常に水の抵抗を受けにくい。橋台の方見てもフラットになってますので、抵抗が全然ない。

問題はここの水生植物が多い茂っている、土砂が堆積しているのが、問題ですが、それは度外視してですね、高橋のような、橋脚、橋台に、かわぞえ川も改良することで、その浸水被害もだいぶ小さくなると思うので、改良をするべきだと思いますが、いかがでしょうか。この点についてはどう思いますか。

議長／森まちづくり部長

森まちづくり部長／かわぞえ川の下流部、JR下の鉄橋のところですが、県の管理区間でして、この分については、議員ご指摘の通り、早急に解決できるよう県の方と協議したいと思います。

議長／12番 吉川議員

吉川議員／よろしくお願いします。

それと、先ほどいいました、水生植物のところに土砂が堆積してるところ。

2年前に市長と地元の皆さんと話しているとき、JRから先の、河口付近については、新設

の要望があったので、早急に対応していただきました。2年たっても上流部は対応できていない状況です。これもやはり、水害といったものから守るためには、新設工事を進める必要があると思いますけど、いかがでしょうか。

議長／森まちづくり部長

森まちづくり部長／先ほどの、川沿い側の改修とあわせて、一緒に県のほうに要望をしたいと思います。

議長／12番 吉川議員

吉川議員／それと、3点目になりますが、この北方の志久の上流部を見ますと、浦田ため池、西堤のため池がございますけど、この上流に大きなため池があります。ここでの調整機能というのを働かせていくのも、1つはあるのではないかと思います。これは水利権の問題、利水されてる皆さんがいるので、そこでの、調整、協議が必要だと思います。こういったものがあるので、利用できるように、市当局が中心にその辺の協議を急いでいくべきだと思いますが、いかがでしょうか。

議長／森まちづくり部長

森まちづくり部長／洪水時に、上流部のため池を利用し、それを調整池として利用する。これは洪水機能、ひとつのため池に洪水機能持たせるというふうなことは有効な方策と思ってます。そのためには地域の協力も必要と思いますが、農業用水のため池ということで、地域との調整、あるいは、ハード整備も必要になるかと思いますが、そういうこと含め、今後、事業化をやっていきたいと思います。

議長／12番 吉川議員

吉川議員／よろしくお願いします。先ほどから、申している通り、4年前の、水害みたいに大きいものがきたときは、どうしようもない。ただ慢性的に、毎年、浸かっている地域、ここはやはり、採石場の調整池ができるからという考えでなくて、そこはそこで、細かい対処を市当局としてやっていただきたい。

議長／樋渡市長

樋渡市長／吉川議員の質問で、考え方が変わりました。どういうことかという、ポンプ

をここだけに付けるとなったら、さすがに、下流域の問題とか、解決にならないんです。ただし、一定ほかのところの、不要不急の部分はあると思います。東川の出ていましたけど、そうではなく、全体として少しずつ削っていく。いつも浸かっているところにあてるというのは、これこそ福祉の維持向上になるとおもう。私と議会といいんですけど、国交省が河川行政の立場として判断する話がありますので、ここはしっかり協議をしていきたいと思う。これは、黒岩幸生議員さんとか、小池一哉議員さんから指摘にありましたように、浸かっているところの中央線がほとんど住宅地の排水になる可能性があるので、さらに対応は一步先んずる必要があるだろうと認識をしたところですよ。こういうことで、私も変わりましたので、国交省と話をしていきたいし、地元の皆さんとも話をしていきたいと思っています。

議長／12 番 吉川議員

吉川議員／よろしくをお願いします。3点目の質問として新武雄病院の評価について質問させていただきます。

新武雄病院においては、開院して4年、新しく新築移転して2年半が経過しようとしています。この4年の中で、さまざまな動きがありました。民間移譲への反対する方々の市長リコール運動。また、住民訴訟、住民訴訟の21億円原告からだしたものを9億円に取り下げる。最終的には市の血税が住民訴訟によって、2300万円失われる結果になってしまった。こういったこともあった。しかし、民間委譲がスタートしたとき、病院については24時間365日の救急医療。また、人間ドックなども予防医療といったものにも努められています。武雄市の基幹病院として非常に高い評価をしているし、信頼もしています。当初、この民間委譲するとき、選考委員会があり、評価する委員会が立ちあげられた。評価委員会のこの動きも非常に注目します。評価の状況について伺います。

議長／樋渡市長

樋渡市長／評価委員会については、数字を出していきたい。緑の線が平成22年の事業評価です。青の線が23年度の事業評価。赤が直近の平成24年の事業評価になっています。ご覧になってわかるように、武雄市立武雄市民病院移譲先病院評価委員会による評価については、5名の民間委員によって構成されています。ノブトモコウイチ先生とか、カエハラリョウタ先生であるとか、あとお三方が入られて、民間の経営者の視点で、医療的な観点から判断されています。特に平成24年度は、救急医療の確保や地域医療機関との関係など8項目ある、市民病院の事業譲渡契約関する事項についてはおおむね計画通り。高度医療の充実や質の高い医療の提供など14項目の医療サービスの質については計画通り。経営の効率化や地域貢献など6項目も計画通りとの評価であります。

さらに数字を申し上げると。具体的に言います。雇用の創出がどうなったか、平成 18 年度の職員数が 103 人だったのが、平成 23 年度、24 年度増えてますけど、新武雄病院関連で職員数が 497 人と 4.8 倍になっている。旧市民病院の場合は職員数は、公務員でしたので、ある意味私どもの税金なりがなっていますが、民間人なので、こういう雇用があり、かつこの方々が救命救急医療をやるので、近くにお住まいになってるんですね。武雄市ならびに武雄市周辺に。その方々が新たな生活をし、新たな市民になってくださっているので、良い効果がでています。

税収ですが、市民病院のときは赤字が最終的には 15 億円に膨らみます。しかし先の吉川議員、牟田議員にも答えしてはいますが、新武雄病院関連で、平成 23 年度で税収が 8500 万円、税収増になっています、8500 万円です。これについては固定資産税であるとかとか、いろんなあとは法人市民税とか 8500 万円まるまる税収増になってます。これが毎年毎年で 10 年になるとで 8 億 5000 万になっていくということになります。そして救急医療の充実、ここがたぶん充実大事だと思うんですけど、18 年度たらい回しのメッカだった市民病院、救急車の受入がたった 727 人なんですよ。

これが一番の問題点だと思っていて、黒岩幸生、当時の市民病院の特別委員長にお願いをして、これは何とかしないといけないっていうんで、特別委員長から、再三ご指摘がありましたので、今どうなっているかということ、2.4 倍、救急車の受け入れが 1773 人になっているんですね。

これは、びっくりしました。僕、ランニングしていると、救急車というのは、あそこにクレジットが書いてあるんですよ。驚くことに、伊万里であったりそういった方々も救急車で来られている。非常に、僕は救急救命士と話をしました。同乗されている…本当に助かっているっていうことを、おっしゃってくれてますので、それは武雄市だけでなく、武雄市民以外の福祉の維持向上に…それは、谷口攝久議員は以前の議員で、これを否定されてるんですね。もう一度確認してもらっても、いいんですけども。それでも、こうやって喜んで、これで武雄市民の福祉維持が***かということ、そんなことは全くありません。これも危惧されました。地域医療との連携はどうなんだと。市民病院の場合は紹介率は 34.5%です。もともとそんなに高くないんですよ、34.5%というのは。だけど、あの当時、リコールを主導された方々が、医療の地域連携は壊れると言っていたじゃないですか。でも今見ていると、1.3 倍ですよ。紹介率 34.5%は、紹介率 44.7%になってるんですね。

これを整理すると民営化の構造がこのような状況になっています。

これを鑑みた場合、これは初めて言う話ですが、私はこれが上手くいかなかった場合は市長を辞めようと思っています。これで済むという、問題ではないが、少なくとも、私が政治的生命を掛けて、これをやると断行したものであり、議会の多くの皆さんたちに、理解を求めるために、その当時の、黒岩幸生特別委員長、牟田議長、今の議長さん、そして、山口昌宏団長さんも含めて、断腸の思いで言ってるんです。ですので、この人たちは、少なくとも集団で辞めようと言うので、引き連れて辞めようと思っています。

じゃあ聞きます。その覚悟が、当時 5 年前の今頃、リコールを伴う、リコール騒動を伴う選挙の真っ最中でありました。谷口攝久議員、平野…下の名前わかりません、平野議員さん、江原議員さん、小柳議員さん、ヨシハラタケフジさん、宮本栄八さんに聞いても、たぶんわからないと思います。石丸定議員さん、石橋議員さん、真っ向から反対されました。しかも、地域医療連携が壊れる、これで、武雄市の医療はがたがたになるということを、再三再四おっしゃって、あろう事か、リコール。自民党と共産党が組んでね、リコールということまで起こされました。住民訴訟も起こされました。しかし、この人たちは、なんらこの評価に対して、言明はしていない。ただし、いろんな問題課題はあります。ありますが、少なくとも当時、あなたがたがおっしゃっていたものに対して、いっさいがっさい、何も言明はないんですね。これは、僕は、政治家としては、だめだと思います。私はもしね、先ほど言った、その効果が上がってなかったら、辞めます。それは、市長として不適格ですから。ですが、これは 100%良いとは思ってませんが、いろんな患者さん、いろんな人たちの意見を聞きながら、やっていこうというのに、反対側の人は、なしのつぶて、何もおっしゃりません。ですので、それはいかなものかと思うので、ぜひ一般質問の際にもね、その当時、僕は攻めている訳ではないんですよ。政治家は発言が全てであります。ですので、ぜひ虚心坦懐に、特に、谷口議員さんにお伺いしたいと思っています。いずれにしても、民営化の効果については、100%でじゃないにしても、民間の評価委員会の皆さんたちが認めてくださるとおり、着実に成果があがっていることについては、市民の皆さんに、きちんと、ここは報告をしたい、このように考えております。

議長／12 番 吉川議員

吉川議員／先ほども雇用の増は、4.5 倍増えていると、500 人規模の雇用の層になっていること。それともう一つ、話はありませんでしたけども、看護リハビリテーション学校の誘致も大きいですね。企業誘致に匹敵するようなことだったと思います。県内外から多くが武雄に移住されて、通学されて、武雄の町がこの病院によって活気づいていると思っています。それと先の市長リコール、住民訴訟にもふれましたが、本当に 4 年間たって評価をする上で、当時の市長の判断、野党議員の判断が正しかったという証明だと思っています。先ほどの、評価委員の皆さんの評価を見ても、すべて 4 以上あったと思います。計画通りに進められている評価をいただいている。これは私が評価をするのと同じだと思うし、市民も同じように思っている人が多いと思っています。

それともう 1 点、この評価委員会の協議の中で、一般社団法人の巨樹の会が、新武雄病院が運営していますが、巨樹の会の下関に置いてあると、税務申告も含め、武雄市へ持っていくべきだという評価委員会の意見もあったと聞いております。その後、巨樹の会、新武雄病院の所在地、どのようになっているのか、お伺いします。

議長／樋渡市長

樋渡市長／今だなと思ったのが、私の発言でメールで飛び込んできました。

市民の皆さんですが、救急車だけでなく、自分の車でも救急医療ができて、本当に嬉しいですよ。年中無休は、こんなに嬉しいことはありませんと、メッセージがきています。

ですので、市民の皆さんもおわかりだと思います。自分も使ってみて、失礼かもしれませんが、病院に行って、命の大切さを、重さを認識していただいたと思います。ちょっと渡し、さっきは言い過ぎました。おそらく反対された議員さんも「しまった」と思っていると思いますので、これからは、ネルソン・マンデラのように、攻めないで、寛容の精神のやっていきたいと思っております。その中で、巨樹の会の所在地、武雄市の所在地の件については、選考委員会でも、委員の皆さん方から、数度に渡って、実はご指摘がありました。このご指摘を踏まえて、本年7月1日に、巨樹の会の所在地が、下関から武雄市に移転したという報告が、7月1日に、本年直近の評価委員会の際に、病院側から、報告がありました。その委員会から報告が受けたので、これは非常に嬉しく思っています。

法人の所在地が武雄市にあるということで、市民の皆さんも自分たちの病院だと、深く認識してくれると思うので、武雄市の下関市から、法人の所在地が、下関から武雄市に移転したことは、心より歓迎したいとこのように思っております。

この喜びを市民の皆さんとも共有したいし、反対された皆さんたちともぜひ共有したいこのように思っております。

議長／12番 吉川議員

吉川議員／以上で3点質問しましたが、1年間振り返ると、病院問題、図書館改革など、さまざまな形で、樋渡市政、行政改革に断行していただいたと思います。

1項目目の市道線、あるいは、水害地の排水対策についても、ぜひ今後、力(ちから)を入れていただきたいし、引き続き、行財政改革のスピードを緩めることなく、突き進んでほしいと思います。これで一般質問を終わります。

議長／以上で、12番 吉川議員の質問を終了させていただきます。